

女性 経営者 に聞く!

安心して
失敗できる
環境づくり



石川
格子
東陽電気工事株式会社 代表取締役

東陽電気工事株式会社

1. 創業100周年を目指して

1933年（昭和8年）に東光電気工事株式会社の白河出張所として、祖父の石川盛蔵が創業し、1965年（昭和40年）には、父が会社を設立しました。その後、2013年（平成25年）に私が承継しました。昭和初期に東北地方の電力需要増大にともない、東京に本社を置く東光電気工事株式会社を通して電力会社の仕事を請け負っていました。その白河出張所を任されたのが、祖父盛蔵でした。

現在当社は、電気・通信・消防設備工事のサービスを主に扱っており、公共では学校や庁舎関係、民間では工場関係を中心に建物や一般住宅の電気工事を行っています。

私は、三姉妹の末っ子として白河市に生まれました。「息子が生まれたら継がせる」つもりだった父。娘たちには家業を継がせるつもりがなかったためか、あまり家業の話をすることはありませんでした。私も、家業を気にすることなく、地元の高校を卒業すると横浜の大学に進学し心理学を学びました。大学卒業後は、英語の塾講師として4年働いていた時、業績不振と体調不良をきっかけに父が会社を畳むことを考えていると知り、継ぐことを決意し、2010年に入社しました。



創業者 祖父 盛蔵

2. 事業承継と荒れた組織

社員が支えてきた会社を続けることの意義を感じて事業承継を決意し、入社して3年半で代表になりました。当時は30歳で女性ということで、親の年代の社員から反発されることも多く、会社の統制が取れていないともどかしく思うことが多々ありました。代表になるまでは、営業、経理、現場巡回と一通り経験し、同時に電気工事士の資格も取得しました。しかし、30名近くの社員が退社していき、経営者としての手腕のなさに落ち込みました。会社を経営していくことに力不足を感じて、まずは土俵に上げてもらいたいと大学院に通いMBA（経営学修士）を取得しました。その後、学んだフレームワークを使って改革を進めるよりも「人が大切」と気づき、社員を中心とした改革を進めていくようになりました。自身が変わり、社員の成長、会社の成長、そして地域の活性化に繋げていく組織運営を進めていけるようになってきたのは、ここ数年のことです。



2代目 父



会社外観



東陽電気工事(株) HP

3. 様々な取り組みと改革

まずは、疑問に感じていた就業規則や人事評価制度を整備していきます。元々あった就業規則を時代に合ったものに作り変えました。給与のベースとなる評価制度は、年功序列だったものを能力重視の制度へと変えていきました。どちらも、長年在籍する社員を中心に反発が起こり、ここで辞めていく社員も何名か出ました。

次の段階では、健康経営の実践や地域と連携したSDGsのイベント開催、経営方針発表会など外部との交流を深めながら社員のモチベーションを高める活動にシフトしていきました。地域との関わりを通して、社員が少しずつ変わっていく実感を持ちました。あとは、売上、利益に通ずる社員の技術力向上とやりがいとは通年の課題となっています。



健康経営



経営方針発表会



社員表彰



SDGs フェア2025

4. 研修棟「大地」の建設

当社は、公共工事6割、民間工事4割ほどで毎年4～6月あたりが閑散期となっていました。毎年、この頃の売上が課題で、しかも4月は新入社員の入社時期。入社しても経験する現場が少ないことでやりがいや仕事の楽しさを感じる機会が少なくなっていました。思い切って、社員を育てる研修に振り切った期間にしようと思ったのは、約5年前。お金を生まない時期ならば、将来お金を生めるような人材育成に先行投資をしようと考えたのです。2021年（令和3年）8月、会社の敷地内に2階建ての研修施設が竣工しました。「安心して失敗できる環境」をコンセプトに施設を研修棟「大地」と名付け、土壌から芽が出る＝研修施設で学んで成長するといったイメージで運用を開始しました。今や、国の施策で土日や

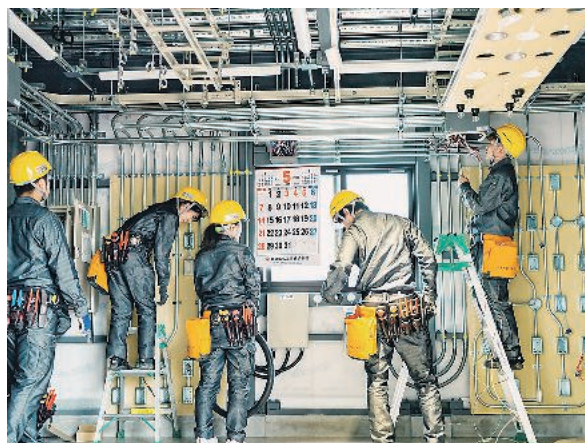
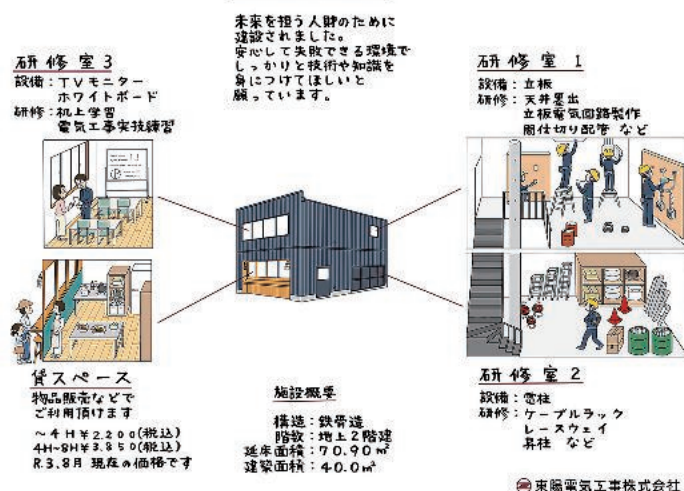


研修棟

残業時間が規制され、益々育成に時間がとりづらくなっているのが現状です。実際の現場に出る前の3ヶ月間みっちり実地研修を積むことで、早期早熟が期待でき、実際の現場で早期に活躍できる人材が育っていきました。

この研修施設は、実際4～6月の3ヶ月しか使用しないことから、社内だけではもったいないと思い、地元の高校生向け電気工事体験会や県内外の同業種の研修所として利用頂いています。

研修棟



5. ずっと働きたい地域へ

これからの未来を担う子供たちにも、地域を知って、企業を知って、この地域で活躍してもらいたいと願います。今、この地域で働く私たちが生き生きと楽しく仕事をしている姿を見て、子供たちもこんな企業で働きたいなと感じてくれることと思います。

子供たちが生まれ育った故郷に貢献できる人材となって、是非福島に戻ってきてほしいと願っています。将来そういった仲間と、福島をさらに素敵な地域にしていきたいです。

私たちが若手世代に準備した「安心して失敗できる環境」は、生き生きと楽しく成長するために必要な環境だと感じています。これからもずっと働きたい地域になることを願い、社員とともに楽しく突っ走っていききたいと思っています。



全員集合写真